

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年11月11日(2021.11.11)

【公開番号】特開2020-69201(P2020-69201A)

【公開日】令和2年5月7日(2020.5.7)

【年通号数】公開・登録公報2020-018

【出願番号】特願2018-206268(P2018-206268)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028 (2006.01)

A 6 1 B 3/113 (2006.01)

A 6 1 B 3/103 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 A

A 6 1 B 3/10 B

A 6 1 B 3/10 M

【手続補正書】

【提出日】令和3年9月28日(2021.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼に視標を投影し、前記被検眼の光学特性を測定するための検眼システムであって

、
前記被検眼の前眼部画像を取得する取得手段と、
前記前眼部画像に基づいて、前記被検眼が前記視標を注視する視線の位置を検出する検出手段と、

前記視線の位置に基づいて、前記被検眼が前記視標を注視する注視状態を判定する判定手段と、

前記判定手段の判定結果に基づいて、前記注視状態を示すための注視情報を出力する出力手段と、

を備えることを特徴とする検眼システム。

【請求項2】

請求項1の検眼システムにおいて、

前記判定手段は、前記視線の位置に基づいて、前記注視状態をリアルタイムに判定することを特徴とする検眼システム。

【請求項3】

請求項1または2の検眼システムにおいて、

前記判定手段は、前記視線の位置が、前記視標を注視していることを示す許容範囲内にあるか否かを判定することで、前記注視状態を判定することを特徴とする検眼システム。

【請求項4】

請求項3の検眼システムにおいて、

前記判定手段は、前記視線の位置が、前記許容範囲に所定の時間以上含まれたか否かを判定することで、前記注視状態を判定することを特徴とする検眼システム。

【請求項5】

請求項3または4の検眼システムにおいて、

前記許容範囲は、前記視標毎に異なる範囲に設定されることを特徴とする検眼システム。
。